



作品名「さくら」

フォーラム 認知症新時代

いきいきと暮らすために

※オンライン開催のお知らせ

認知症の医療とケアの実践がはじまって約20年。
いま当事者と家族はどのような日々を過ごし、
どういった支援を求めているのか…。
コロナ禍を経て激動する社会の中で、今改めて
認知症とともに生きる“共生”について考えます。
あなたが認知症になった時、どう生きますか？

参加
無料

※要事前申し込み

2021年12月5日(日)

開演:午後1時 終演予定:午後3時45分 ※途中休憩あり

定員 500名

(インターネットデータ通信料のみご負担ください)

事前の申し込みが必要です。
詳細は裏面をご覧ください。
※定員になり次第締め切ります。



参加申し込み用
二次元コード

■申し込みはこちらから

<https://www.npwo.or.jp/info/20111>

参加者ごとに個別の「ユーザー名」「パスワード」をお送りしますので、お一人ずつ事前申し込みが必要です。参加ご希望の方は上記ホームページからお申し込みください。

◆パネリスト



【画の作者】
柿下 秋男さん(68)

7年前に若年性認知症と診断される。ダイケアで芸術療法 (ARTMaN)に触れ絵画をはじめ。上の作品は一般向けセミナーで「直感」をテーマに描いた桜。描くうちに少年時代に過ごしたワサビ田が思い起こされ、絵に描き込んだという。左の作品はARTカフェで描いた自画像。認知症の自分へのエールとして描いた。



繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学附属病院
精神神経科 診療部長
(メモリー外来)
同大学精神医学講座 教授



堀田 聡子

慶應義塾大学大学院 教授
認知症未来共創ハブ 代表



望月 省吾

日本認知症本人ワーキング
グループ所属
かながわオレンジ大使



町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

■主催 社会福祉法人NHK厚生文化事業団 株式会社NHKエンタープライズ
■後援 NHK横浜放送局 厚生労働省 公益社団法人認知症の人と家族の会

■協賛 エーザイ株式会社

ほか 当事者・家族の皆さま

フォーラム 認知症新時代

いきいきと暮らすために

2021年12月5日(日)

開演:午後1時 終演予定:午後3時45分 ※途中休憩あり



パネリスト

しげた まさひろ

繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学附属病院 精神神経科
診療部長(メモリー外来)
同大学精神医学講座 教授

東京慈恵会医科大学卒業。1992年～1995年、スウェーデン・カロリンスカ研究所 研究員。1995年、東京慈恵会医科大学 精神医学講座 講師を経て、2003年、東京都立保健科学大学 教授。2005年より首都大学東京 健康福祉学部 学部長。2011年より首都大学東京 副学長。今年4月より現職。日本老年精神医学会 理事・日本認知症ケア学会 理事・日本認知症学会 評議員・東京都認知症対策推進会議 副議長。「病氣と暮らしを見守る医療者でありたい」が信条。



パネリスト

ほった さとこ

堀田 聡子

慶應義塾大学大学院 教授
認知症未来共創ハブ 代表

東京大学 社会科学研究所 特任准教授、ユトレヒト大学 訪問教授などを経て2017年4月より現職。博士(国際公共政策)。人とまちづくり研究所 代表理事、日本医療政策機構 理事のほか、社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会(厚生労働省)などにおいて委員。学生時代から自立生活を送る障害者の介助などに携わり、人と地域がもともと持つ力の回復・再生の手がかりを探り、対話と活動を続ける。2018年に仲間たちとともに認知症未来共創ハブを始動。



パネリスト

もちづき しょうご

望月 省吾

日本認知症本人ワーキンググループ所属
かながわオレンジ大使

長年医薬品メーカーに勤務。山梨県のファイナリーに出向していた62歳の時にアルツハイマー型認知症の診断を受け、故郷の藤沢市に戻った。外出の機会が減るなかで、「何かできることはないか」と地元市役所を自ら訪ね相談。日本認知症本人ワーキンググループへの参加や、福祉施設でのマンドリン演奏ボランティア活動へとつながった。診断から16年が経つ78歳の今も活動を続け、ソムリエの資格も活かしたワイン講座なども開いている。「認知症なんて関係ない。とにかく前向きに生きていく」という思いは市内外へと広がり、今年、「かながわオレンジ大使」に選ばれた。

ほか 当事者・家族の皆さま



コーディネーター

まちなが としお

町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在はフリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

■ 参加申し込みについて

インターネットに接続された環境下にあるパソコン、スマートフォン、タブレットで全国どこからでもご視聴いただくことができます。参加ご希望の方は下記ホームページからお申し込みください。右の二次元コードからもお申し込みいただけます。

<https://www.npwo.or.jp/info/2011>

- ※参加申し込みいただいた方には「申し込み完了メール」(自動返信)をお送りいたします。
- ※11月25日に「ライブ配信ご視聴の手引き」などの本フォーラムに関する資料を郵送します。
- ※申し込みが11月26日以降の場合、事前資料はお送りしません。「ライブ配信ご視聴の手引き」「よくあるご質問」「プログラム」を11月25日にホームページに掲載しますので、そちらをご確認ください。
- ※「ライブ配信するサイトのURL」「ユーザー名」「パスワード」など視聴に必要な情報は、11月29日以降に『視聴に関する大切なご案内』という件名のメールにてお伝えします。
- ※受信拒否設定などの影響によりメールが届かない場合があります。[npwo.or.jp]からのメールを受信できるよう、あらかじめ設定の確認をお願いいたします。また、フリーメールアドレスで申し込まれた場合は、こちらからお送りするメールを受信できないことがあります。
- ※12月1日を過ぎても『視聴に関する大切なご案内』メールが届かない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。
- ※個人情報とは適切に管理し、本フォーラムの連絡のみに使用いたします。
- ※新型コロナウイルス感染症の影響などにより変更が生じた場合は、ホームページにてお知らせします。

■ 視聴上の注意

- ※Wi-Fi(無線)接続の場合、状況により映像や音声途切れる場合があります。長時間の視聴になるため、3G/4G/5G/LTE回線での視聴は、データ通信量が決められた上限に達してしまう場合がございますのでご注意ください。
- ※参加者ごとに個別の「ユーザー名」「パスワード」をお送りしますので、お一人ずつ事前申し込みが必要です。

■ 問い合わせ

NHK厚生文化事業団「認知症新時代フォーラム」係
電話 03-5728-6633 (平日 午前10時～午後5時)



参加申し込み用
二次元コード



SHIGETAハウス
(神奈川県平塚市)より
ライブ配信します。

SHIGETAハウスは、パネリストの繁田雅弘先生の生家を利用して、認知症をもつ人とその家族にとって安心できる場を目指して2018年にスタート。地域の人のための居場所としても活動が広がっている。